

第六期札幌市図書館協議会

第3回会議

議 事 録

日 時：平成28年7月14日（木）午後2時開会
場 所：札幌市生涯学習センター「ちえりあ」 3階 研修室5・6

1. 開 会

●中央図書館（阿部運営企画課長） 14時となりました。ご案内の時間となりましたので、ただいまから、第六期札幌市図書館協議会第3回会議を開催いたします。

私は、中央図書館運営企画課長の阿部と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の出席委員数は、11名を予定しております。上田委員からは欠席される旨のご連絡がありました。また、吉岡委員はおくれて出席するとの連絡をいただいております。なお、高倉委員はおくれていらっしゃるようでございます。

出席者数につきましては、札幌市図書館条例施行規則第27条第2項に規定しており、委員の過半数を超えておりますので、この会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、本日お手元の既に配付しております資料について確認をさせていただきます。

まず、A4判の第3回会議次第でございます。資料1は、これまでの第1回から第2回のこの協議会で出された主な意見の概要をA3判にまとめたものです。資料2は、平成27年度生涯学習センター事業報告書というA4判の冊子です。資料3は、このたび小竹正剛さんから図書・情報館へご寄附をいただいておりますので、その概要をまとめたものです。最後に、座席表です。以前に送付したのから変更がございましたので、改めて机の上に置かせていただいております。

不足している資料がございましたら、お知らせいただければと思います。

◎挨拶

●中央図書館（阿部運営企画課長） それでは、会議の開催に当たりまして、中央図書館館長の千葉から皆様にご挨拶を申し上げます。

●千葉中央図書館長 中央図書館長の千葉でございます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、第六期第3回会議でございます。前回お話がありましたように、今回は札幌市生涯学習総合センターのちえりあにて開催することとなりました。札幌市の生涯学習の推進につきまして、現状のご理解につながればと思っております。

本日は、教育委員会生涯学習推進課から本市の生涯学習推進の施策について説明をいただいた後、生涯学習振興財団から生涯学習センターでの事業概要を説明していただく予定としておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議 事

●中央図書館（阿部運営企画課長） それでは、早速、議事に移りたいと思います。

河村会長、よろしくお願いいたします。

●河村会長 それでは、会議を進めさせていただきます。

議題1の生涯学習社会の中で札幌市図書館が果たすべき役割について、事務局からご説明をお願いいたします。

●中央図書館（根尾企画担当係長） 中央図書館運営企画課で企画担当係長をしております根尾でございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

私から、配付いたしました資料と議題1の流れにつきまして簡単に説明させていただきます。

資料1は、これまでの第1回と第2回の協議会で出てきた意見のダイジェスト版です。資料2は、生涯学習振興財団が実施している各種生涯学習関連事業の昨年度の報告書です。いずれの資料につきましても本日の会議に臨むに当たっての参考資料として事前に送付させていただきました。

本日の流れです。

まず、札幌市では、生涯学習の推進の方針といたしまして、札幌市生涯学習推進構想という上位の計画を持っております。この計画の所管課であります生涯学習推進課からこの計画の内容や考え方について説明をいただきます。その後、生涯学習推進構想を受けて、実際に各種生涯学習関連事業を展開している生涯学習振興財団からその事業の概要の説明をいただく予定としております。それらの説明を踏まえまして、前回の協議会から引き続いて質疑応答やご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速、生涯学習推進課から説明をお願いいたします。

●生涯学習部（近藤生涯学習係長） 私は、教育委員会生涯学習推進課で生涯学習係長をしております近藤と申します。

本日は、先だってお配しているというふうにお伺いしていますが、生涯学習事業概要の1ページをもとにご説明をしたいと思います。皆様、お手元にごございますでしょうか。もしお持ちでないのであれば、該当箇所のページを持ってございますので、お配りいたします。

それでは、1ページをごらんください。

まず、導入でございますが、生涯学習について説明しております。

自らの意思と選択によりまして人生のあらゆる成長過程で各人の趣味、関心や生活領域に応じて行われるさまざまな学習活動を意味しますとあります。

本市におきましては、平成7年4月に策定されました札幌市生涯学習推進構想、私どもでは第1次構想と呼んでおりますが、こちらに基づきまして、平成12年に本日お越しいただいております「札幌市生涯学習総合センター（ちえりあ）」や後ほどご紹介させていただきます体系的な学習機会を提供します「さっぽろ市民カレッジ」の開設等、市民の学習環境を整備しております。

続きまして、平成19年3月に策定しました第2次札幌市生涯学習推進構想では、平成19年度からの10年間の指針として、本市の生涯学習の更なる充実を目指し、「いきいきと学ぶ」「成果を活かす」「学びをつなぐ」の三つの基本施策を掲げまして、地域にお

ける生涯学習支援、大学等、高等教育機関との連携、学んだ成果を生かす取組の推進等、学習環境の整備を継続してきました。

真ん中の基本施策Ⅰから基本施策Ⅲのところでは、

次に、今回は、図書館協議会でございますので、図書館の関係について言いますと、基本施策Ⅰの「いきいきと学ぶ」のところでは、乳幼児期からの子どもたちの健やかな育ちの支援として読み聞かせ事業の推進が記載されております。基本施策Ⅲの「学びをつなぐ」では、図書館につきましては、生涯学習関連施設として社会のニーズに的確に対応した機能強化が記載されております。

現在、私ども生涯学習推進課では、平成29年度からおおむね10年間の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示すものとして第3次札幌市生涯学習推進構想の策定作業を進めております。

策定に係る検証としましては、昨年度に実施しました市政世論調査で生涯学習の方法についての問いを設定しましたが、その中で「新聞、雑誌、専門書などの出版物」が56.6%と最も高い回答率となっており、「公共施設で生涯学習を行う」と答えた方の最も多く利用した施設として図書館が19.5%で、第3位という結果がございます。そうした意味から、図書館が生涯学習支援の重要な施設として位置づけられていると当課でも認識しております。

生涯学習推進の具体的な取組につきましては、現在、指定管理者の生涯学習振興財団に事業展開をお願いしておりますので、簡単ではございますが、生涯学習推進課からの説明は以上とさせていただきます。

●中央図書館（根尾企画担当係長） どうもありがとうございました。

引き続きまして、生涯学習振興財団からお願いいたします。

●生涯学習振興財団（堀澤センター長） 札幌市生涯学習センター長の堀澤でございます。

本日は、当センターにお越しいただき、まことにありがとうございます。

札幌市生涯学習センターは、札幌市が生涯学習推進の指針として平成7年4月に策定した札幌市生涯学習推進構想に基づき、市民に自主的な活動や交流の場を提供するとともに、生涯にわたる学習活動を総合的に支援するための中核施設として平成12年8月にオープンいたしました。以来、さっぽろ市民カレッジを初めとした幅広い分野にわたる各種講座や学習についての相談、情報提供、サークル活動の支援など、市民の皆様のさまざまな生涯学習活動を支援し、一人一人が生き生きと学び、交流することができる場を目指しております。

昨年度は、当センター1階のメディアプラザの図書配架レイアウトを変更し、本やCDの特集展示を充実させたこともありまして、利用者は前年度から大きく増加いたしました。また、さっぽろ市民カレッジを初めとする各種事業を通して、市民やボランティア団体の生涯学習事業への参加を図るとともに、サークル発表会など、学習成果を生かした市民の社会参加を支援し、多様な学習機会の提供に努めた結果、受講者数や参加者数は増加傾向

にあります。

今後も、市民参画を推進しながら、多様なニーズに対応した学習機会や情報を提供し、学習に取り組むきっかけづくりを行うとともに、継続的な活動の場や学習成果を発表する機会の提供などを通して市民の学習活動を支援し、生涯学習の普及啓発を図っていきたくと考えております。

それでは、この後、担当課長から生涯学習センターの事業概要を説明させていただきます。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） 生涯学習センター事業課長の楠と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

生涯学習センターの事業概要についてパワーポイントでご説明させていただきますが、準備をさせていただきますので、少々お待ちください。また、正面にあるスクリーンに投影してご説明いたしますので、ごらんになりやすい位置にご移動をいただけますようお願いいたします。

それでは、始めさせていただきます。

この後は、着席してご説明させていただきます。

ちえりあという愛称を持つ札幌市生涯学習総合センターは、生涯学習センター、教育センター、リサイクルプラザ、宮の沢若者活動センターの4施設を複合した生涯学習施設として平成12年8月にオープンいたしました。

ちえりあの中核である札幌市生涯学習センターは、市民のさまざまな生涯学習活動を支援することを目的といたしまして、436名が収容可能なホールを初め、演劇や音楽の練習スタジオ、図書や音楽CDなどの貸し出しや学習相談を行うメディアプラザ、コンピューター研修室、陶芸室、アトリエ、茶室など、幅広い学習要望に対応できる設備と機能を持っております。

平成18年度から指定管理者制度が導入され、現在、指定管理者として公益財団法人札幌市生涯学習振興財団が運営を行っております。

生涯学習センターでは、学習機会の提供、人材活用・育成、学習活動の支援、調査研究、学習の場の提供、施設管理を行うことで、子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層を対象に多様な事業を展開し、市民が自由にみずから求める学習を行うことができる施設づくりを目指しております。

初めに、学習機会提供・活動支援事業から、さっぽろ市民カレッジについてご説明させていただきます。

さっぽろ市民カレッジは、生涯学習センターがオープンいたしました平成12年9月に開設した市民向けの講座で、年間を3期に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の三つを体系化いたしまして、段階的かつ継続的な学習企画の充実を図りながら、年間で約300講座を実施しております。

職員が企画する一般市民を対象とした講座のほか、大学や企業などとの連携講座、市立

札幌大通高校の校舎内で生徒と市民がともに学ぶ学舎融合講座、学習ボランティアやご近所先生と呼ばれる市民講師が講座の企画、運営を行います講座など、多様なプログラムを提供しております。

昨年度は、市内18カ所で305講座を実施いたしまして、受講者数は5,168名と、2年連続で5,000名という大台を達成しました。

写真は、市民活動系の講座の一例で、道内で深刻な被害を与えているエゾシカについて学ぶ「おいしいエゾシカ学」の様子になります。鹿の生態、鹿の工芸、鹿を食べる、鹿を狩るという四つのテーマについて、それぞれの専門家からさまざまなアプローチでエゾシカについて学び、エゾシカによる北海道のまちづくりや経済振興について考えていただきました。

向かって右上の写真は、鹿の角を使ったアクセサリーづくりの様子で、その下は調理実習で作りました鹿肉料理の写真になります。

こちらは、産業・ビジネス系の講座の一例です。

さっぽろ市民カレッジとしては珍しく、受講者の8割以上を40代以下の若い女性が占めた「女性のためのおうち起業」の写真になります。SNSサイトのフェイスブック内に受講者のみが参加できるグループをつくりまして、講師への質問を受け付けたり、受講者同士が起業への不安や悩みを打ち明けたりする交流の場を設けましたところ、好評でした。

続きまして、こちらは、文化・教養系の講座で、「古地図と歩く札幌の様子」です。最近人気の高い実習や現地学習を交えた講座の一例です。

まち歩きをするルート of 明治から平成に至るまでの変遷についての解説を聞いた後、地図を片手に講師の説明を聞きながらまち歩きをいたしました。札幌の歴史やまち並みに興味や関心を持つ受講者が多く、シティーガイドの検定に挑戦したいという声が上がっております。

こちらの写真は、市立札幌大通高校で市民と高校生がともに学ぶ学舎融合講座、「体感トレーニングで体の歪みを根本から改善」の様子になります。

高校生と一般市民が1対1でペアを組むようにいたしましたところ、年配者が転倒しないよう、高校生が手助けをする場面が見られるなど、世代を超えた交流が図られていました。

こちらは、北海道教育大学との連携講座の「懐中電灯で光のお絵かきに挑戦」の様子です。

小学生を対象にいたしまして、遮光した部屋の中で懐中電灯を使って空中に絵を描き、その様子をシャッターを開放して撮影して製作する光のお絵描きに取り組んでいただきました。子どもたちの満足度が高く、小学校の教員を目指す大学生にとって大きな自信につながったようです。

こちらは、民間企業との連携講座の「森の学校、まるごと森を楽しむ」の様子になります。

アサヒビールと連携いたしまして実施いたしました。森林の役割と保全活動の重要性についての説明を聞いた後、バスに乗って定山溪の国有林内にあるアサヒの森に行き、枝打ち体験や間伐材を使ったクラフト工作、ハンモック体験などの北欧型森林環境プログラムを取り入れたレクリエーションを行いまして、親子で自然について遊びながら学んでいただきました。

こちらは、生涯学習センターで育成しておりますちえりあ学習ボランティアが企画、運営を行った講座で、「楽しく学ぶ健康食としてのそば」の様子です。

4回シリーズで、そばの歴史、文化、栄養から食べ方まで、多角的に学んでいただきました。珍しい韃靼そばの花や実の実物を観察したり、そばの実を引く体験をしたりといった実習もあり、いろいろな面からそばのすぐれている点について知ることができたと好評でした。

ちえりあ学習ボランティアは、さっぽろ市民カレッジの中心的な受講者数と年齢的にほぼ一致するということもありまして、講師選定におきましても内容におきましても、講師ニーズを的確に捉え、受講者の満足度の高い企画を数多く企画しております。

こちらは、中央区民センターで開催しました市民講師ご近所先生の講座で、「風呂敷、手ぬぐい100%活用術」の様子です。

家にあっても使われていない風呂敷や手拭いを本を返す際やお裾分けの際にかわいらしくアレンジして包んだり、ペットボトルホルダーにする方法を学んでいただきました。最終回は受講者が風呂敷でつくったバッグをそれぞれ持参し、風呂敷や手拭いの思い出話を語り合う時間を設け、交流を図りました。

ここで、市民講師が企画、運営を行いますご近所先生企画講座について少しご説明させていただきます。

ご近所先生企画講座は、市民に学んだ成果や経験を生かしていただくことを目的に開催しております市民が主役の講座です。コンセプトは学び合いです。講師からの一方通行で講座を進めるのではなく、講師と受講者が同じ目線に立って学び合う、講師から受講者、受講者から講師、受講者から受講者と、皆が一つの円になるような講座を目指しております。

また、地域の人材を掘り起こし、コミュニティー施設と連携しながら学習機会を提供することで新たな学びのコミュニティーが生まれます。市内各地にある施設を有効活用しながら、講座終了後に学びを継続したい人たちを対象としたサークル活動を行うことで地域の施設が活性化します。これらにより生涯学習によるまちづくりを実現することがこの講座の狙いです。

実際にご近所先生企画講座として開講した講座の約8割がサークル化したり既存のサークルに合流したりと、学びの場が広がっております。

以上がさっぽろ市民カレッジの取り組みでした。

続きまして、生涯学習関連講座でございます。

こちらは、平成22年度から受託しております西区の高齢者大学のときわ大学で手稲記念館を見学したときの様子です。2カ月間、15回のプログラムで、歴史、薬、パソコン、絵手紙、漢字、食、スポーツと、幅広く学びながら交流していただきました。

続きまして、生涯学習普及事業でございます。

こちらの写真は、子育て中の方々が乳幼児と同伴で気兼ねなく楽しめるゆりかごコンサートの様子です。

昨年6月には、歌とピアノ、管楽器のアンサンブルコンサートを行い、ホールが満席となりました。子どもがぐずらずに見ていた、子どもものりのりで楽しかったといううれしい声をいただきました。ことしの2月には、読み語りと人形劇と楽器演奏とを融合いたしました読み語りシアターを開催いたしまして、こちらも親子で楽しんでいただきました。

続きまして、文化振興事業になります。

こちらは、落語学校鑑賞会の様子になります。

市内の小学校9校の児童を招待いたしまして、鳴り物や所作の解説、古典落語の鑑賞、寄席太鼓や笠回しなどの体験を通しまして伝統芸能への理解を深めていただきました。鑑賞後に落語っておもしろいと言って笑顔で帰っていく児童の姿に、囃家さんたちや私たち職員も手応えを感じております。

続きまして、学習活動支援事業です。

こちらは、サークル発表会の様子になります。

生涯学習センターや区民センターなどで活動しているサークルの方に日ごろの学習成果を発表していただくというものです。舞台部門はホールで、展示部門はロビーで発表を行いました。出展団体、観覧者数は、過去最多の75団体、1,796名を記録いたしました。発表会終了後も問い合わせが多く、この取り組みが浸透しつつあると感じております。

以上が学習機会提供・活動支援事業の取り組みでした。

続きまして、学習支援者活用・育成事業から、学習指導者、ボランティアなどの養成でございます。

こちらの写真は、ご近所先生として市民講師になるための研修会の様子です。

これまで講師経験のない方も多いことから、約半年間かけて育成しております。ご近所先生企画講座の理念である学び合いへの理解を深めていただくとともに、受講者とのコミュニケーションのとり方や講座開講時に起こり得るトラブルへの対処法など、講師に必要な知識やノウハウを学んでいただきました。このほか、講師同士の情報交換とネットワーク化を図るため、講師が一堂に会する交流会も実施いたしました。講師同士のネットワークづくりが着実に進んでいるところです。

続きまして、生涯学習センター管理運営事業から、施設の対応でございます。

貸し室事業につきましては、写真にありますホールや和室の割引制度の一層のPRを行いまして、さらなる利用促進を図りました。その結果、利用率は前年度よりも0.5%上昇いたしまして、80.7%になりました。

次に、図書及び視聴覚教材の貸し出し、資料収集並びに管理運営でございます。

こちらは、1階のメディアプラザの写真になります。

利用者の利便性を高めるとともに、新たな本との出会いを創出するため、昨年5月末に開館以来初めてとなる大幅な図書の配架レイアウトの変更を行いました。また、本や雑誌、CDの特集コーナーや職員のお勧めコーナーを設置いたしました。このほか、写真の右下にありますとおり、毎月1回、ランタンのほのかな明かりのもと、音楽と読書を楽しめるノスタルジック図書室を開催いたしました。こうした取り組みが大変好評で、年間利用者数は過去最多の7万5,694名となり、20代や40代の新規利用者も増加しております。

以上が生涯学習センターの事業概要ですが、先ほどセンター長からもご説明させていただきましたとおり、当センターは、札幌市の生涯学習を総合的に推進するための中核施設としての役割を担っております。そのため、ご近所先生企画講座を初めとするさっぽろ市民カレッジを各区の区民センターや地区センター等のコミュニティー施設でも展開しているところです。しかしながら、施設自体が札幌市の西端に位置しているという立地条件もありまして、大多数の事業を行っております当センターにおきましては、利用者の居住地も西区や手稲区、中央区で全体の約8割を占めているという状況でございます。

現在、さまざまな分野の市民講師を育成し、また、市民講師バンクにも登録しており、講師同士のネットワークも広がっておりますことから、札幌市における生涯学習の中核施設として当センターが主体となって生涯学習関連事業を全市的に展開できるよう、地域に密着した拠点づくりが課題となっております。

以上で事業説明を終わらせていただきます。

この後、施設見学をしていただきたいと思います。

●生涯学習振興財団（成田総務課長） 総務課長の成田と申します。

私は、この施設の管理、貸し室事業を預かっております。

これから、少しお時間をいただき、総合センターの貸し室事業の概略についてご説明いたします。

生涯学習センターの貸し室としては、まず、先ほどご紹介いたしました大きなホールがございます。こちらは、後ほどごらんになっていただきたいと思います。それから、6階には216席を要する講堂がございます。また、大中の研修室等がございますほか、アトリエ、陶芸室、スタジオがあり、これは音楽や演劇、映像等の目的の部屋となっております。さらに、サークル活動室もございまして、登録している約150のサークルがさまざまな活動を行っております。それから、和室、茶室がございます。

このほか、教育センターとの複合施設となっております、教育センター専用の研修室がございます。ここを有効活用しようということで、平日の夜間及び土・日に7室を一般市民に貸し出しているところでございます。

それから、若者活動センターが大きな体育館を持っております。さらに、音楽スタジオ

や活動室等が7室ございます。若者活動センターは私どもの所管ではありませんが、これらを含め、全部で40近い部屋を市民活動のための部屋として貸し出しております。

年間の利用者数は、ホールやメディアプラザの利用者を含め、延べ40万人となっております。

それでは、早速、部屋をご案内いたしますので、ご用意をいただきたいと思っております。

廊下にご集合いただいた後、ご案内させていただきます。

[施 設 見 学]

●河村会長 それでは、再開させていただきます。

ちえりあの施設説明並びに見学等をさせていただき、ありがとうございました。

今回、ちえりあを会場として図書館協議会を開催したいという趣旨は、生涯学習推進課及び生涯学習振興財団から生涯学習推進の取り組みなどについて説明をいただき、それらを踏まえて図書館事業の生涯学習関連事業がどのように連携を深めていけるかのさらなる議論を深めようということが目的でありました。

これまで生涯学習の場として図書館の機能を強化したいという札幌市の考え方が示されてきておりますが、本日の見学や説明を経て、今の図書館に足りないもの、また、付加できる機能等にお気づきいただけましたらご意見を伺いたいと思っております。

本日は、ちえりあを管理している財団の方々も参加してくださっておりますので、図書館で活用できるようなこと、次回の協議会に持ち帰って検討できることなど、疑問に思った点について何なりとご質問をいただければと思います。

それでは、議論に入ります。

最初に、皆さんが話しやすいよう、私から感想を一言述べさせていただきます。

見学させていただきましたが、生涯学習施設としてはとても立派だなと思いました。このような施設が各区に札幌市が建てられるのであれば、今諮問いただいている内容はクリアできるのかと思いますが、それはなかなか難しいことでしょうから、ちえりあで行っていただいているような事業で図書館と協力してできるようなものについて、先ほど説明いただきましたけれども、図書館は地区館を持っておりますので、全市的な事業展開をする拠点として協力していければいいのかなと感じました。

それでは、各委員からもそれぞれご意見をいただき、議論を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

どなたからでも結構でございますので、お願いいたします。

●豊田委員 すてきな施設のご案内をどうもありがとうございました。

先ほどの説明も含めて、本当にいろいろな活動がここでなされているのは本当に素晴らしいと思います。メディアプラザも本当に生き生きとした棚づくりをされていて、職員の方々が頑張っているのさなと感じました。

ただ、今後もっと発展させていくというか、ちえりあが問題というよりも、図書館がこういった活動にどう入り込んでいけるのかが課題だと思って見ました。

東京都調布市の例を言います。

調布市でも、ご近所先生ではないですけども、まちゼミみたいな感じで、魚屋さんや星空のことに詳しい人が先生になって学ぶという講座をやっているのですが、そこに図書館員が入り込んでいくのです。そして、例えば、きょう学んだことを深めるための図書のリストやきょう学んだことをもっと発展させるための参考図書のリストをつくったりするのです。

ご近所先生については、先ほど講師のトレーニングもされているということで、すばらしいと思いましたが、ご自身が教えるとき、もちろんその分野については専門でいらっしゃるのしょうけれども、参考図書の挙げ方などについてはわからないと思いますので、そういったときに図書館がヘルプできる部分がいっぱいあると思うのです。

実際、受講生でも、ダンスなど新しいことを始めるときにもっと学びたいという気持ちになると思うのです。そのときに横に本があれば、その人たちの人生を豊かにしていくことにつながると思いますし、最終的には地域の活性化にもつながっていくのかと思うのです。

ですから、施設の中において、講座は講座としてある、メディアプラザもメディアプラザとして独立している、屋根だけは一つということではなく、いろいろな講座の中に図書館がもっと入り込んでいき、クラスづくりを一緒にやっていければ、もう一段階上のサービスを札幌市として展開できるのではないかと思います。

ざっくりとした感想ですけども、以上です。

●下田委員 きょうは、どうもありがとうございました。

私も豊田委員とほとんど同じような感想を持ちました。

つい最近のことですが、我孫子市の図書館のことについて、明治大学でビデオをつくっていて、それを見せていただきました。図書館は図書館、生涯学習機能のある公民館は公民館としてそれぞれの機能を持っているのだけれども、一つの建物として結びつきが持てるように配置されているのです。ここで言うと、ちえりあの利用者がいろいろな活動をして、先ほど豊田委員がおっしゃったように、もうちょっと深めたいと思ったとき、向かい側に図書館の入り口があり、そちらを使えるようになっているのです。そちら側から見ると、図書館は自分たちの公民館の活動の一部になっているのです。また、図書館を利用している人たちとしては、図書館を利用しに来ているのだけれども、向かい側でやっているいろいろな行事を見ることによって刺激を受けているのですね。そういうものを見せていただいたとき、きょうのこととすごく結びつくなと思いました。今度はシステムが一つになるということですので、そういう意味では、お互いを支え合う関係ができるのかと思いました。

そして、これは区によって違いますけれども、私が住んでいる厚別区の図書館も公民館

と図書館がほぼ同じ建物の中にあるので、有機的な結びつきが持ちやすいのかと思います。

今まさに求められていることは、図書館が市民の活動や生涯学習をどれだけ支えられるかだと思います。図書館が何かをするということより、そういったところにどううまくかみ合っているのかが求められていると思いました。

●駒木委員 委員の駒木です、よろしくお願いします。

きょうは、どうもありがとうございました。

私から一つ質問です。

学習機会提供・活動支援事業にさっぽろ市民カレッジがありますが、若い女性の方の起業セミナーを行っているとのことですが、実際にそうした講座を受けられて起業された方は何人ぐらいなのでしょう。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） そこまでは押さえておりませんが、まだ小さい子どもをお持ちの方で、具体的に起業イメージができている方というよりはいずれ起業したいという方が多く、実際に起業された方はそのうちの1割ぐらいではないかと思います。

正確に調べ切れておりませんので、私の感想でした。

●駒木委員 ありがとうございます。

また、きょう、ご近所先生企画講座なるものがあるということを知りました。小学校や中学校でも、保護者の方に向けていろいろな講座の講師の方を探していると発信しておりますし、どういった方がいいのだろうかということもあるのです。ただ、こういった講座があるので、今後はいろいろと活用させていただきたいと思いました。

また、メディアプラザの図書館利用者が7万5,000人で、入場者数は19万人とおっしゃっていたのですが、年間稼働日数は何日なのでしょう。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） 1カ月に1回の休館日がございまして、そのほか、閲覧だけの日が毎月最終水曜日です。また、年末年始を除きますと、340日ぐらいは稼働していると思います。

●駒木委員 ありがとうございます。

また、全体的な感想としましては、札幌市には10区ありますが、各区にこのような施設があれば本当に素晴らしいと思います。ただ、現実的にはなかなかそうはいかないということで、図書館とどういうふうに関わったり、共存共栄を進めていったらいいかということですが、私として思うことがあります。

市民の皆さんに対して、各区に平均して同じものが平等に置かれることもいいかと思うのですが、専門書というか、具体的に言うと、図書館に関してですが、例えば北区に行けば建築系の本がいっぱいあります、手稲区に行けば医療系の本がいっぱいありますなどです。専門書は高額で、図書館では購入できないという実情もあるようですので、本当の意味での専門書を選別し、差別化していただければ、各区の図書館がもっと活性化していくのではないかと思います。

また、ここには小説や絵本はありませんよというふうにおっしゃっていましたが、そう

いったものに関しては学校図書館やまちづくりセンターの図書館などで賄えると思いますので、先ほど申しあげましたように、専門書によって差別化することが今後の道筋かと思いました。

きょう本当にいいなと思ったのは、ちえりあの中に映像スタジオや鏡を張ったダンススタジオ、演劇スタジオがあることで、そちらの稼働率が上がるように改善していただければと思います。

●河村会長 今のお話は、市民のニーズに合わせた運営をされているということだったかと思えます。

きょうは4時30分をめぐりに会議を終了することになっておりますが、皆様から一言ずついただいた上で質疑をしたいと思えます。

●萩原副会長 萩原でございます。先ほど来ご発言を聞かせていただいて、私も同様のことを思っていました。

図書館はメディアセンターとしての使命が非常に強い部分がございますので、そういった利点や性質を活用し、生涯学習センターと連携することを考えたときには、豊田委員がお話しされたように、それぞれの方の市民活動や自己の活動を深めるための資料提供や場の提供などがサポートできることが最大のポイントではないのかと考えておりました。

また、駒木委員から専門的に特化した蔵書をとのお話があり、私も同様に感じる部分もありますけれども、このときに同時にクリアしなければならない課題があると思うのです。それは、その地域に住んでいないのだけでも、その専門書が借りたいとなったとき、どれだけ利便性を向上していただけるのかを担保しておかないと、活動していくときに苦しいかなと思いました。

最後に、こちらの生涯学習センターとしては図書館に対してどのようなことを期待されているのかを聞かせていただけるとありがたいと思っておりますので、よろしく願います。

●生涯学習振興財団（堀澤センター長） 先ほど来お話しさせていただいておりますが、生涯学習センターは、市民の生涯にわたる学習活動を支援するための施設でございます。当然、我々スタッフは、講座やイベントなどの生涯学習事業の企画実施に着手しておりますけれども、センターの役割や大きな使命感として、地域づくりも意識しているところがございます。そして、生涯学習の拠点として、まちの人々を学びで結んでつないでいく、また、地域に根差した生涯学習の文化を育んでいきたいと考えております。ただ、そのためには我々もまちに分け入っていき、地域の人々と一緒にできることを探していくことが課題であろうと思っております。また、そうして地域に密着して我々が得たノウハウを展開していくために活動の拠点がもう少しあれば、10区で万遍なくサービスが提供できるのかと思っております。

このように、拠点づくりが課題だと思っております。地域には区民センターや地区センターといったコミュニティーセンターがありますけれども、さらなる拠点があれば活動が

もっと豊かになるのではないかと考えております。

●萩原副会長 ありがとうございます。

ますます図書館もさまざまなイベント等を行っておりますので、そういった連携も可能かなというふうに考えました。

●河村会長 順に聞いて、意見を発言していただくと言いながら申し訳ないのですが、今のことに関連してお伺いいたします。

今、ちえりあからは、活動の拠点を図書館側に求めたいということで、具体的なお意見がありました。

図書館では、各区に分館等を用意してネットワークを組んでいます。こちらでは多様なプログラムで先ほどご紹介いただきましたようなものを展開されていると思うのですが、満足度が高く、各区でも展開してみたいというような内容はございますでしょうか。

例えば、さっぽろ市民カレッジと生涯学習関連講座のご紹介がございましたけれども、西区、ちえりあだけで行うのはもったいないと思い、各区の図書施設でも実施したいというようなものです。

●生涯学習振興財団（堀澤センター長） 市民講師による事業は各地域でも展開しておりますが、例えば一つ参考に挙げさせていただきますと、先ほど説明いたしましたゆりかごコンサートでして、これは、乳幼児をお持ちのお母さんと子どもが多少ざわついても気兼ねなく、お子さんと一緒に音楽を楽しめるものです。

ただ、アンケートを見ますと、遠くの区にお住まいの方はここまで交通費をかけて来づらいということがあります。そこで、本の読み聞かせの事業とあわせて地域で展開できると、地域の子育て支援ができますし、また、音楽活動をする方の学習成果の発表の場にもなりますし、若い世代との交流ができるということがありますので、子育てということをキーワードにしても事業の幅を広げていくことが可能かと思えます。

ですから、そういったレベルでは、たくさんのおアイデアが出てくるかと思えます。

●河村会長 ありがとうございます。

それでは、秋山委員、お願いいたします。

●秋山委員 秋山と申します。

皆さんがいろいろな意見を述べられましたので、私から簡単なことを申し上げたいと思います。

とにかく、きょうは、ありがとうございました。

ちえりあは学会での会議で一度使わせていただいただけで、講堂がどんなものか大変興味がありました。非常に立派な講堂がここにあるということで、うらやましく思った次第です。

なぜそんなことを申し上げるかといいますと、私がこの委員になったのは、サイエンス・コンソーシアムという企画を立ち上げ、年6回程度ですが、図書館と一緒に講演会を開催しているからです。こちらの講演会の活動を見せていただきましたら、ことしの3月に小

林快次さんが恐竜の話の講演をされておりますね。私どもでもサイエンスフォーラムで小林さんに2012年11月に恐竜の子ども向けの話をしていただきました。彼は非常にもてる男で、子どもたちからサインせめに遭っておりました。

それはともかく、こちらでやっている講演会と図書館でやるような講演会ではどこが違うのかです。私は図書館側の人間ではありませんけれども、協議会の委員をやっている関係でどこが特化できるのかを考えたのです。

講演を行う場合に、図書館では蔵書の案内をしているのです。その講演に関係する本や演者の本を20冊か30冊ぐらいいリストアップしまして、参加者にお渡ししているのですね。これは、それでもって図書館の機能がさらに活性化するのではないかという期待を込めてやっているのです。成果は出ていると思っているのですが、集計は十分になされておりません。そういったことは、ここで講演する場合と違って少し有利な点なのではないかと感じました。

ただ、ここの施設は非常にうらやましく、かつ、多方面な活動をしておりますので、図書館側としてはいろいろなところで現在持っている施設を利用して、ここではできないようなことを考えていかなければならないのではないかと思います。その一つとして今のことが挙げられると考えております。

●神原委員 神原と申します。どうぞよろしくお願いたします。

きょうは、ちえりあをご案内していただき、ありがとうございます。

率直な感想ですが、整備が充実しており、大変立派だと感じました。ただ、どの世代が今の時間帯にいらっしゃっているのかと思いましたが、それぞれのブースにはきょうの講座の方が入っていらっしゃるのでしょうけれども、親子の姿が少ないと思いました。

そして、先ほどのご説明の中では、ちえりあ利用者は西区、手稲区、中央区ではほぼ80%を占めているのですということでしたが、こうした地域性はいたし方ないのかなと思いました。

先ほどセンター長からゆりかごコンサートを全区にご案内しているというお話がありましたね。確かに、私たちの子育てサロンにも案内をいただいております。所在地は中央区ですけれども、こちらに足を運ぶ親子はいらっしゃいませんでした。

今のように、コンサートと本の読み聞かせということで、一つだけの事業ではなく、いろいろな付加価値をつけることによって足を運んでもらうということもおっしゃっていたので、大変関心を持って聞かせていただきました。

質問ですが、ゆりかごコンサートというのはどの時間帯を想定しているのですか。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） 午前中の1時間程度です。

●神原委員 そうなると、近い方ではないと足を運ぶことができないのではないかと思いますので、時間設定についても考慮していただきたいと思いました。

また、本のところを見せていただきました。これからは図書館と連携して、つながりを持つということでしたけれども、絵本が少ないですね。児童書のところもを見せていただい

たのですけれども、ふらっと子どもたちが足を運んだ場合、そばに本があればと思いました。そういう環境について今後は図書館と連携して考えていただけたら、生涯学習という観点で広がってほしいと思いました。

気づいたことはほかに何点かありますけれども、各委員のみなさんが話して下さり同じような感想を持ちました。ありがとうございました。

●北村委員 北村と申します。

きょうは、貴重な時間をいただきまして、どうもありがとうございました。

前々回まで、僭越ながら、同じ教育委員会の中であって云々と申し上げました。きょうは、そういう面では、生涯学習機能と図書館機能が一緒になった施設でやったことはそれなりの意味があるのだろうと思います。

今回、私がここに来るに当たり、今までは、生涯学習センターではなく、生涯学習社会の中での札幌市図書館の果たすべき役割についてこの2回ほど知恵を絞ってきたわけでございます。生涯学習社会と図書館の役割ですから、これは理念的な問題かと思えます。

それは、ソフトの問題としてはいいと思うのですけれども、生涯学習社会を推進する典型的なものとしての生涯学習センター内のメディアプラザと図書館という二つが存在している様子を自分の目で見られたのは非常に有益だったと思っております。ソフトとハードの両方の面で見るとということからすれば、きょう来た目的の一つは達成されたのではないかなというふうに思います。

それを踏まえた上で二つほど質問があります。

前回に下田委員がおっしゃっていた生涯学習関連施設の定義は何かという質問に対して、僕が聞き逃したのかもしれませんが、答えが見えなかったので、この場でもう一度ご説明いただければありがたいと思います。それは、生涯学習センターがここにあるのだから、それが全てだと言われればそれまでですけれども、もう一度お願いいたします。

加えて、確認でございますけれども、札幌市図書館は、図書館法第2条第1項で定める公立図書館であり、その分館を指すと理解しているわけです。今まで、図書館についてこれを2回ほどやりましたけれども、正確に言えば、図書館ではないのです。札幌市の図書館であれば、公共図書館、公立図書館、いわゆる税金で賄っている図書館であり、一概に図書館と言ってしまうと大学図書館も入ってきますので、生涯学習社会における図書館の話をする分では非常に便利なことではあるのです。しかし、僕の考えでは、あくまでも公立図書館としての役割と市が設置した生涯学習センター、生涯学習社会の典型的な例を見ていくというふうに思っていたのですね。

そうしますと、ちえりあにあります1階の図書コーナーは公立図書館の分館というふうに位置づけると理解してよろしいのかどうかを教えてくださいたいと思います。

それから、生涯学習事業概要では、社会教育施設の中の教育文化施設の一つとして生涯学習センターが位置づけられております。ここで図書館にこだわってしまうのですけれども、札幌市図書館条例の施行規則でいきますと、第24条第2項で、教育長は、区民セン

ターのほか、市役所、地区センターその他の適当と認める施設内に図書室又は図書コーナーを設置できるとされているのです。

つまり、メディアプラザはちえりあにおける図書館を指すと考えていいのでしょうか。この点についてご説明をお願いしたいと思います。

これを聞いておかないと、これを読むときに悩んでしまうので、済みませんけれども、お願いいたします。

この後に関連質問があるのですが、まず、2点についてお願いいたします。

●教育委員会（大場生涯学習推進課長） 生涯学習推進課長の大場と申します。よろしく申し上げます。

生涯学習関連施設についてのご質問ですが、生涯学習という概念はとても広いものでして、当然、生涯学習を進めるに当たり、さまざまな施設を活用しなければいけません、その中核施設がこの生涯学習センターになります。

ただ、生涯学習というのは今申したように範囲が広いので、図書館も生涯学習の範囲に入ります。スポーツも文化もそうですし、市民の地域活動も含め、全てが生涯学習という概念に入ります。

しかし、生涯学習について我々生涯学習推進課で全てできるわけではありませんので、図書館業務であれば中央図書館に専門的にお願いしていることになります。ただ、生涯学習の概念の中にも図書館は入っておりますので、図書館も生涯学習関連施設としての位置づけになります。

●北村委員 どうも、ありがとうございます。

これは、前回も皆さん方がおっしゃっていたように、社会教育施設に図書館が入っているから一括で理解しなさいということですね。

それでは、2冊ほど書類をいただきました。ちえりあにおける表現の仕方としてメディアプラザ図書カウンターとなっております。そのほか、図書コーナーと図書室とあり、三つほど言葉が出てきているわけですが、この辺の使い分けというか、機能は、僕ら図書館から見る者として、本があればみんな図書館と思っていたのですが、そうではなさそうなのでですね。

カウンター、コーナー、図書室という使い分けはどういう機能のことを言っておられるのでしょうか。

●河村会長 大分質問が長くなっておりますが、本日この会場を使わせていただいている協議会では、連携を具体的にどのようにできるかについて質問していただくという趣旨で開催しております。生涯学習推進課の方々や生涯学習振興財団の方にも多数出席していただいておりますので、図書館の概念的なことの位置づけの議論は避けたいと思います。

私が考えているところでは、もともとは行政的に別な路線で走っていたのだと思います。生涯学習においても、生涯学習施設であるちえりあにある図書コーナーには生涯学習関連の図書を置いているということで、本来の図書館サービスと一体化していたわけではない

と捉えております。札幌市の図書館行政としては、西区にも地区館なり分室があるわけです。

ただ、利用者から見るとそういうわけではありませんので、札幌市の図書もこのカウンターで借りられるようにしたのは、利用者の動向を見てという展開であろうと思います。

今後、関連して、サービスの連携をとり、いかに利用者の満足度を上げていくかという連携方策を探っていくということだと思っております。

ですから、せっかくの機会ですので、もうちょっと具体的に連携のあり方についてご質問等していただければと思います。

申しわけありませんが、下田委員に対する先ほどの質問に対する回答も次回の協議会ということでよろしいですか。

●北村委員 下田委員が質問したことに対する回答はどういうふうに考えますかということですか。

●河村会長 申しわけありませんが、先に進めさせていただきたいと思います。 それでは、木村委員からお願いいたします。

●木村委員 木村でございます。よろしくをお願いいたします。

前回までの会議は欠席しておりましたので、的外れなことを言うてしまうかもしれませんが、お許しいただければと思います。

私は公立中学校に勤めておりますので、生涯学習センターを本当によく利用させていただいておりますが、施設見学を改めてしたとき、多目的、多機能でつくられていると感じました。ふだん私が利用していると、行くところと行かないところがございますが、いろいろな設備を見ていくと、本当に多目的につくられているので、市民側からはそのニーズに合わせた活用できる場所として機能しているなというふうに思いました。

そこで、図書館とのつながりについて考えていきますと、私は社会教育委員もさせていただいているので、生涯学習にもかかわらせていただいているのですけれども、図書館の持っている役割は非常に大切であると感じております。そして、それぞれが点としてではなく、また、線としてではなく、空間としての広がりを持ったかかわりや連携ができればいいと思いつながら皆さんのお話を聞かせていただきました。

今ここでできることはたくさんあるわけですが、そこでできることと、先ほどから話が出ております地区センターやまちづくりセンターでできること、それから地域や地区の図書館や中央図書館でできること、それをどうすればつなげていけて、市民のニーズや生涯学習という観点から必要な新しい試みや楽しい取り組み、場の提供、人の提供につなげていけるのかを考えました。

やはり、まずは事例が必要なのだらうと思いました。

きょう発表されたご近所先生の企画については多くの方からも出ておりましたけれども、非常におもしろい試みをしていると初めて聞かせていただきました。生涯学習では地域の人材を育成していくことを一生懸命やっているのですけれども、その方々が次にどこで活

躍するかという場の提供が問題になっていて、学んだことを広げていく取組のヒントがこれだと思って聞いておりました。

ですから、図書館とコラボレーションしたらこういうことができたという事例を一つ二つとたくさん積み重ねていき、こんなことができるんですよということを発信していくと、受け手の側の地区センターやまちづくりセンターでも、では、こういうことはできないでしょうかという逆の提案ができるのではないかと思います。どうすればつなげていけるかを考え、事業の事例をたくさん行っていくことがすごく大事ではないかと思っております。

先ほどの講演についての話もそうで、講演の中で図書を紹介し、それをまた借りていただいたり、購入していただくなどで広げていくほか、そばに図書館があり、こんなふうに借りられますとなり、図書館に還元していける事例がたくさんあると大変いいのかと思いつながりながら伺っておりました。

もう一つは、学校図書館も先ほど来のお話で言うと札幌市の図書館の一つと考えられるのだらうと思います。学校図書館司書がことしから中学校に配置されておりますし、ある程度の予算を各学校で持っておりますので、図書館司書とコラボレーションして、学校がもっとおもしろい図書館づくりを進めることでそれが地域にも還元できるような取り組みができると地域の方々にも広がり、生涯学習という観点で学校の図書館も広がっていくと思われました。

●河村会長 ありがとうございます。

きょう見学をさせてもらったの感想、ご質問等を一通りお伺いいたしました。

生涯学習振興財団からは、特にゆりかごコンサートを1時間ぐらい実施しており、それを全市的に実施したいということがありましたが、見学させてもらった施設のどこでやっているのでしょうか。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） 1階のホールで開催しております。ですから、400名以上の方にいらしていただいております。メディアプラザに行く直前に見学していただいたホールです。

●河村会長 ちえりあは、生涯学習施設として、先ほどの概念で言う生涯学習を表現する施設としてつくられたのだと思うのです。図書館は、もともと生涯学習の機能は果たすだろうけれども、生涯学習施設の下に入っていて、一部の機能を果たしていると捉えております。先ほど言いましたように、ちえりあのようなものが各区にあることが一番望ましいでしょうけれども、それが不可能だから、図書館としては分館や各地区にあるものをご提供するというような形が現実的な協力体制だと思うのです。

これは一つの例だと思うのですけれども、コンテンツ的なもので言うと、ちえりあはゆりかごコンサートが必要だということですね。400名ぐらいが入るホールで行っているということで、これはすばらしい企画なのかもしれませんが、図書館施設で行うことも可能かと感じましたが、いかがでしょうか。

●下田委員 先ほど質問しなかったのですが、お聞きしようと思っていたことが会長からあったのですが、多分、この施設ほど立派なホールはないと思うのですが、厚別区だと集合施設の中にホールがありますし、北区では区民センターの中にホールがありますよね。そういうふうにして縦割りを超えて、例えば、この区にはここにホールがあるというような情報の押さえ方は可能でしょうか。そういう形で実際に調査などをしたことはございますか。

●生涯学習振興財団（堀澤センター長） 事業を具体的に進めるための調査はまだ行っておりませんが、確かに大変貴重な意見だとお聞きしましたし、広く事業展開することを検討する必要はあるかと思いました。

●下田委員 ありがとうございます。

もう一つは、ご近所先生企画講座についてです。先ほどのご説明の中で、講座が終わった後、8割以上がサークル化しているということでしたが、それはちえりあをベースにしているものだけではないと思うのですが、どの区にというのはご存じでしょうか。

●生涯学習振興財団（楠事業課長） 講座を終了した時点で、その講座の受講生だけで形成されたサークルが8割ということではなくて、既存のサークルに合流したものもあります。誤解を招くような発言してしまい、申しわけありませんでした。

ただ、各地区センターや区民センターで行っております講座では、そこでできたサークルもありますし、ちえりあにもともとあったサークルに合流したり、新たにできたものなどがございます。

●下田委員 それでは、会長にお返ししますが、多分、そういうサークルが活動するに当たって図書館でできることはないかという方向性もあるのではないかと思います。

●豊田委員 今のことに関連します。

私は、「生涯学習情報」というパンフレットをメディアプラザでいただきました。札幌市の市施設としては、この生涯学習センターだけではなく、環境プラザ、あるいは、大学や専門学校、NHKセンターなど、こんなものが入りますというリストがありますが、これに図書館が絡んでいったほうが良いと思うのです。札幌市の施設なのに、図書館が何で入っていないのかと思ったのです。

せっかく大学も視野に入り、道新やNHKのカルチャーセンターまで視野に入れたリストをつくっているのであれば、その中に図書館が入っていないのは非常に悲しいですし、この存在感のなさはどうすればいいのかという感じです。

そういうところから一歩ずつ進めていくと、横の交流がもっと進んでいき、すごくいいものができると思いますし、横展開にもつながっていくのかと思いました。

●河村会長 ありがとうございます。

見学させてもらい、説明を受けて、各委員から一通りご意見を伺いましたけれども、見学はされておられませんけれども、吉岡委員からは何かありますか。

●吉岡委員 吉岡と申します。よろしくお願ひいたします。

ちえりあはよく利用させていただき、資料もお借りしておりますし、市民団体としては本当に助かっております。ありがとうございます。こちらの講座にも参加したことがございますし、親しみを持っておりますし、理解もしているつもりです。

議題1の生涯学習社会の中で札幌市図書館が果たすべき役割について、いただいた意見の概要等を振り返りながら私なりに少しだけ発言させていただきたいと思っております。

意見概要の中にありますが、ちえりあで行われているさまざまな学びと連携して、市内の各図書館でも実施していくという連携は本当にうれしいことだし、進めていただきたいと思います。

その中で札幌市図書館が果たすべき役割というテーマですね。そう考えた場合、前の協議会でも発言しましたが、図書館の独自性ということで、こちらのちえりあのような場所で講座形式の学びが多いと思うのですけれども、それとは若干異なる独自性が必要だと思っております。こちらにおいて講座形式で培ったものを各地域の図書館で学べるのが柱としてあるならば、独自性としては、例えば、先ほどサークルというお話が出ておりましたけれども、市民サークルによる読書会で学ぶ、割と長いスパンで何年にもわたって学ぶ読書サークルのようなものをつくって、生涯学習の場とするというようなことが図書館ならではの持ち味になるのではないかと考えております。

そこで、キーワードとして思ったのは、図書館の独自性ということですが、図書資料がたくさんございますので、哲学と古典の二つはどうかと思っております。どうやって心豊かに生きるのかを学びたい市民はすごく多いと思うのです。札幌市ではありませんが、ある地域の図書館では万葉集を読む会を20年も30年もやっていて、そこで出会った方が万葉の地を訪ねるということをやっているのです。そこは、図書館があって、読書サークルがあって、そこでの学びがあって初めてつながりができておりますので、そういうようなことで、生涯学習の中で札幌市の図書館の独自性を打ち出すことができるのではないかと考えております。

きょうは、こんな意見をお伝えできればというふうに思って参りました。

●河村会長 ありがとうございます。

一通りご発言いただきましたが、一つ目の議題にあと10分ぐらいは時間をとれます。せつかくの機会ですので、ご質問等があれば手短かにお願いできればと思います。

どなたか、ございませんか。

●下田委員 今、図書館の独自性のお話をされたのですが、先ほど北村委員のお話と関連があるのかと思ったので、感想を申し上げます。

独自性よりも、とりあえず図書館法に基づく公立図書館の役割をどうしたらいいかという軸足を変える必要はないと思うのですけれども、先ほど秋山委員がおっしゃったものなど、今はいろいろなアプローチが生涯学習に対してある中で図書館に何ができるかという視点で考えたほうが良いと思っております。

とにかく、存在を知ってもらうという意味では、先ほど豊田委員がおっしゃったように、

こういうものには入れていただきたいと思います。また、最近、東京に出張に行って思うのですけれども、JR駅にある「この出口を出るとどこに行けます」というものの中に図書館があるのです。しかし、札幌市では、「ここを出れば図書館があります」という表示がある駅におりたことは一度もありません。東京には結構あります。「ここには何々区図書館があります」というように、図書館の表示が出てくるのです。

こういうふうに、小さなことでもいいので、見過ごされないようなアピールをしつつ、常に母体組織を支えるという図書館の役割をみんなで共有できればいいなと思いました。

●河村会長 今お話しいただいたことはごもっともだと思います。

先ほども言いましたように、図書館が生涯学習施設の一つであるとはこのごろよく言われるのですけれども、この施設を見ていただいてわかりますように、生涯学習とは図書を活用したものだけではありません。多様な方々が使われておりますが、その中の一つとして、図書を扱っている図書館がそういう方面でどう連携をとって協力していけるかです。とりあえず、ちえりあから先ほどの発表等も含めてお話しいただいたのは、ここでやっているサービスといいますか、いろいろな事業は、西区、手稲区、中央区の方の利用が80%と、限られた利用になっているので、全市的な展開ができないかということがありました。ですから、施設としての利用というか、展開場所としての協力があるだろうということです。

また、図書コーナーは、そもそも、札幌市の図書館の運営ではなかったのだけれども、生涯学習に関連する資料を扱っており、利用者のニーズもあるため、貸し出しができないかということになったわけです。今はコンピューターで検索できる時代になっておりますので、大通カウンターのような形での拠点として生きているということです。先ほどは図書館法がどうのこうのという話が出ましたけれども、もともとは生涯学習の位置づけで図書館が動いてきたわけではないのですが、生涯学習という意味合いは大きいので、図書館も一施設として生涯学習にご協力できないかということだと思っております。

会長が長くしゃべって申しわけありません。

ここにきた意味合いというのは、ちえりあの方から先ほどありましたけれども、こんなものを事業展開したいのだ、こんなものが成功しているのだということで、多様なプログラムをいろいろとされているのですけれども、せっかくの機会ですから、今後の課題として満足度の高いものを抽出していただき、図書館施設を使ってどんな展開ができるかということですので、一緒に歩んでいけたらと思っております。

ほかにご意見はございませんか。

●豊田委員 私は図書館法がよくわかっていないせいもあり、個人的に余りこだわっていないのです。しっかりした建物ではなくても、今、まち中を図書館にしようという海士町の取り組みもありますが、本当に小さなコーナーでも立派な図書館になり得ると思っております。いろいろなところがネットワークでつながることで、公立や民営、寄せ集めの小さな市民が本を集めたような文庫かもしれませんが、それはみんな仲間なのだと思うの

です。そこがネットワークを組むことによって地域が元気になればという気持ちでいます。

今回、生涯学習センターと連携を組むことによって図書館が可能性を広げていくことはとても大事なことだと思いますし、もっと言ってしまえば、このパンフレットに大学やカルチャーセンターなども入っているように、将来的な話かもしれませんが、まちの中のいろいろな施設を視野に入れることがいいのではないかと思います。

実は、前回、これは言うのをやめようかなと思っていたことがあるのですね。

それは、例えば、札幌市にエルプラザがありますね。札幌駅の北側の立地条件が最高にいいところです。それこそ、行政的には違う部署のものだからこそ、連携が全然できていません。でも、あの立地条件とコンセプトからすれば、生涯学習センターとの連携の中にエルプラザを巻き込んでもいいはずなのです。

そういうことも今の近々の課題からは外れてしまうけれども、どこの行政の下にいるとか、どういう運営をされているか、どういう形態かに余りこだわらずいろいろなネットワークを組んだほうが可能性は広がるのではないかと思います。

●河村会長 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。

利用者にとってみれば、図書館なのか、生涯学習施設と言われるちえりあなのかなど、どこが運営しているかという問題ではなくて、利用者にとって一番大きいのは施設までの移動時間や距離です。地下鉄で来る人は15分で来られますけれども、地下鉄駅と直結していないところに住んでいる方はそれ以上かかってしまいます。この辺が一番問題かなと思います。

申しわけありません。時間になりましたので、その辺につきましては次回の図書館協議会でもう少し議論を深めたいと思います。

それでは、議題2に移ります。

小竹正剛氏からの寄贈について、事務局からご説明をお願いいたします。

●中央図書館（浅野図書・情報館担当係長） 図書・情報館担当係長の浅野です。

二つ目の議題についてご説明をさせていただきます。

図書・情報館と申しますのは、時計台のすぐ隣の街区の北1条西1丁目のところに建設中の札幌市民交流プラザ内の1階と2階に平成30年度オープンを目指して準備中の施設でございます。ビジネス支援や働く方のサポートを行う全く新しいコンセプトの図書施設です。

さまざまな働くに役立つ場を目指しておりますが、働くという意味は、会社に勤めるだけでなく、起業や社会貢献型のビジネスもあります。そうした働く方々が集まり、必要な情報を得たり交換したり、そこから何かを支援するような場ということでご理解をいただきたいと思います。

こちらにつきましては、次回に改めてご説明をさせていただきたいと思います。

本題に入ります。

お手元の資料をごらんください。

小竹正剛様は、豊平区にお住まいで、現在84歳、貸しビル業を営まれている方です。平成20年に、若い人の奨学金にということで寄附金を前にも寄せられておりまして、札幌市では小竹正剛奨学基金というものが既に造成されております。累計額は8億円です。

平成26年10月に図書・情報館への寄附の打診をいただきました。その後、ビジネス支援コーナーの見学や事業説明を通して理解を深めていただいております。先般、平成28年6月8日に寄附申出書のご提出をいただきました。金額は3億円で、年度内に分割して納金予定でして、既に半額を納金していただいております。

こちらの感謝の意については、7月22日、市長、副市長、教育長が出席し、感謝状の贈呈式を開催いたします。また、図書館として感謝の意をあらわすため、名称を併記するようなことを考えております。

こちらは、ご報告ということでご了承いただきたいと思っております。

●河村会長 ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明につきましてご質問やご意見等はございますでしょうか。

●豊田委員 これは、メディアか何かに報じられているのですか。

一番上に朝日新聞とありますが、これは4億円の寄附のときですか。

●中央図書館（浅野図書・情報館担当係長） 奨学金のときですね。ただ、このたびの感謝状の贈呈式については、広報メモを通じてマスコミに流れると思います。ただ、ご本人は派手にPRするようなことではなく自然に伝わるようなことを望んでおります。

●豊田委員 ご本人が余りPRしたくないのですか。

これに刺激されて、タイガーマスクではないけれども、私も私もと札幌市でたくさん寄附金が集まればいいなと思ったのです。宣伝には使えないということですね。

●中央図書館（浅野図書・情報館担当係長） そうですね、ご本人のスタンスもありまして、それぐらいにとどまるかと思っております。ただ、こういう時代ですから、取材が来る可能性もあります。

●豊田委員 ご本人の気持ちももちろん大事ですけども、こういうことがあり、寄附によって若い人たちのために図書館が充実するということはメディアに出して、札幌市民に広く伝えてもいいことではないかと思っております。

●中央図書館（浅野図書・情報館担当係長） それは、寄附者と調整したいと考えております。

●萩原副会長 今の説明の中で、たしか、一番下の感謝の意のところに札幌市図書・情報館に併記する形でこたけ情報ライブラリーと載せるのですよね。それでPRではないですけども、そういったことに近づけるのかと思っております。

●吉岡委員 恐らく、やりとりの中では、今おっしゃったように、こたけ情報ライブラリーと併記することで了解されていると思うのです。ただ、図書館では、その方の名前を冠した何々文庫をつくることがありますが、そういうご希望はなかったのでしょうか。

恐らくなかったのではないかと思います。もしそういうようなことが可能でしたら、

小竹様は若い人が志を持って未来に向かっていくことを応援したいということですので、そういう志を持った若い人のためのコーナーを小竹文庫にすると、市民に向けてのアピールになるのではないかと思います。

●中央図書館（石田調整担当課長） こちらのご寄附については、図書・情報館はこれからできるものですが、小竹さんから、まさに札幌が世界に誇れるようなものにしてほしいということがありました。そのときには、例えば、テーブルや椅子も、言っては何ですが、こういう事務的なものではなく、いろいろな人がこれを目当てに集まれるものにしてほしいということもありました。また、今、文庫の話が出ましたけれども、資料はどんどん新しくなっています。一度買ったものは10年そのままということでは余りよろしくないということで、できればそういうことにも使ってほしいということがありました。そのほか、講演会などもできればいいなど、我々と話している中で話題が広がっています。ただ、それら全てが小竹情報ライブラリーという中に入っているということです。

皆さんとしては、小竹情報ライブラリーと言われても、何だ、これとは思われると思いますので、図書・情報館ができ上がったときにプレートでお知らせすることもあるかと思います。また、豊田委員から大々的に宣伝して、寄附が集まればいいのではないかとということもありましたが、本人としては売名のためにやっているのではないとっておりました。ただ、言ってくれるなということでもありません。しかし、事業を営んでおり、売名行為と言われるのは本意ではないということがあるのかと思いますので、バランスをとりながら、宣伝ではありませんが、皆さんに知らせていければと思っております。

●豊田委員 これは、年度内に3億円ではなく、多年度にわたったほうが図書館としてありがたいということはないのですか。

●中央図書館（石田調整担当課長） こちらとしては、予算で毎年幾らということがありますが、ご本人とのお話の中でこういうふうにしたいということでもありますので、こちらはそれをありがたく受け取ったというふうにご理解いただければと思います。

ただ、3億円をいただきまして、それを年度内で使い切ってしまうということをごいませんで、基金として運用していきたいと考えております。

●河村会長 ありがとうございます。

それでは、議題3に移ります。

札幌市民交流プラザの一般供用開始日についてです。

●中央図書館（浅野図書・情報館担当係長） こちらは、日付の報告になります。

図書・情報館につきましては、市民交流プラザと合わせ、平成30年10月7日が一般供用の開始日となります。

前の日にセレモニーが開かれる予定でして、今、一般的にどちらをオープンの日にするかは市役所で検討中ですが、一般供用開始が10月7日であるということをお知り置きください。

●河村会長 ありがとうございます。

質問はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

- 河村会長 それでは、以上で本日予定されておりました議事は全て終了いたしました。全体を通じてご意見等はありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

- 河村会長 生涯学習振興財団におかれましては、本日の図書館協議会の開催にご協力、並びに事業内容の説明をしていただき、また、施設の見学を実施していただき、ありがとうございました。今後の図書館協議会において具体的な連携のあり方について協議させていただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次回の協議会の日程についてご説明をお願いいたします。

- 中央図書館（阿部運営企画課長） 最後に、事務局からでございます。

まず、冒頭で今回の出席委員数を11名と申し上げましたが、最終的に高倉委員がご欠席でしたので、10名となりました。この場をかりて訂正いたします。

次回の第4回協議会につきましては、今のところは8月ごろを目途に考えております。最終的に決定いたしましたら別途ご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

また、交通費についてです。請求書等をまだ提出されていない方は事務局までお願いいたします。

- 秋山委員 皆様のお手元にサイエンスフォーラムのチラシがあるかと思います。ぜひ時間を見てご出席いただければと思います。ちえりあの方々には届いておりませんので、後でお渡しいただければと思います。

3. 閉 会

- 河村会長 それでは、第3回図書館協議会をこれで閉会いたします。

どうもありがとうございました。

以 上